

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

世の中は点数が全てなのか

慶應義塾普通部 2年 天野 瑞久

「勉強しろ。」

「テストでいい点を取れ。」

…大人たちが口を揃えて言う。僕は、この言葉を聞くたびに嫌になる。世の中は点数主義になっていないか。学校は、どの教科も成績のほとんどがテストの点数で決まる。体育でさえ、技や特殊な技ができるかできないかで成績が決まってしまう。何でもできるヒーローみたいなやつは何とも思わないかもしれないが、僕自身はこのシステムに非常に苦戦している。

僕が通っている学校は附属校で、この夏休みも、とにかく勉強するようにと言われてしまった。しかし、言われれば言われるほど、なぜかやる気がなくなっていく。勉強が大事だということもわかるけど、僕にはどうしてもやりたいことがあった。それが、スタジアムの模型作りだ。

僕の学校では、秋に「労作展」という一大行事が開催される。これは、生徒一人一人が興味のある分野を研究し、展示することを目的としている。僕はその展示会で、構造が複雑でとても難しい『サンティアゴ・ベルナベウ』という、スペインにあるスタジアムの模型を作りたいと、ずっとずっとと思っていた。しかし、勉強に苦戦している僕に対して、模型を作る時間はないという意見もあり気持ちが沈んでいた。やっぱり無理かと諦めかけたが、考えるほどに、どうしても模型を作りたくなっていく。そこで、建築設計士の祖父に相談してみると、

「人間が作り出した造形物なのだから、作れないものはないよ。せっかくだから挑戦してみたら？」
と、超名言を放ってくれたのである！！これはやるしかないと感じ、何があろうとも模型作りを成し遂げようと思った。

まずは、ベルナベウの構造について調べることにした。しかし建築に関する資料はゼロ。あったとしても、スタジアムの紹介動画や画質が悪い写真しか見つからなかつた。そこで、祖父にも協力してもらしながら、限られた資料の中から模索して、『サンティアゴ・ベルナベウ』についてとにかく調べた。ネットで販売していた『3Dパズル』にも挑戦した。少ない情報の中から、祖父と一緒に模型の設計図をパソコン上に作った。

そうしてついに完成した設計図は、僕が描く適当な設計図とは違い、一つ一つのパーツが組み合わさるように緻密な計算がされていて、その凄さに驚いた。また、瞬時に構造を理解できるプロはかっこいいとも思った。

完成した設計図をもとに、3mmのホワイトパネルを利用して、カッターナイフで一つ一つのパーツを切り抜き、組み合わせていった。全部で二百個以上のパーツを組み合わせるのは大変だったけど、夢中に作業をしているといつもつい気になってしまい、携帯電話のことやサッカーのことが、全く気にならないほどであった。全ての工程を終えるのに丸5日間もの時間がかかったが、頑張った成果が作品に表れ、僕は感動してしまった。

この模型作りを通じて、僕は、不可能なことを可能にする経験の大切さと、達成感を学んだ。そしてこの学びは、点数を取るための学びではなく、物事を成し遂げるための学びとして重要なのではないかと感じたのだ。

現在、勉強に限らず、スポーツやSNSなども『点数主義』の傾向があるのではないか。確かに、スポーツは点数が取れないと結果として成り立たない。SNSもフォロワー数や視聴数が多い方が良いだろう。しかし、数字や結果に囚われるあまりに、それがプレッシャーとなり、スポーツが好き・動画編集が好きといった、シンプルに目の前のことを楽しむという純粋な気持ちが失われてしまうのではないかだろうか。

一方で、今回の模型作りの経験を通じて、自由に好きなことだけをやるというのも違うと思った。例えば、計算力がなければ設計図は完成しないし、少ない情報からアイデアを絞り出すためには理解力が必要である。つまり、自由に好きなことをするためにも、『勉強』が必要だということなのだ。

時に、いい点数を取るというシステムも大切かもしれないが、それだけに囚われず、将来に活用できる学びを意識しながら、学校生活を充実させることが重要なのではないか。